

佐賀市教育委員会 様

学校名 佐賀市立 西与賀小学校

校長名 大木 貴博



## 平成29年度教育課程について(届出)

このことについて、佐賀市立小・中学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり届出します。

### 記

## 1. 学校の教育目標

### I 学校経営の基本理念

学校教育の使命：『確かな学力』『豊かな人間力』の育成にある。＜不易＞

- 1 学校全体で培いたい人間観 “人もよし、我もよし 周りよし”
- 2 心づくり・学びの構えづくりを基礎とした確かな学力づくり
- 3 “ふるさとを愛する人づくり” ～心のふるさと教育～
- 4 佐賀大学教育学部代用附属小学校（H29 年度～）としての“自覚”と“責任”

### II 学校経営方針

#### 1 学校教育目標

「自ら学び、共に生きる西与賀っ子」の育成

#### 2 目指す学校像 “あいうえお” で取り組む学校

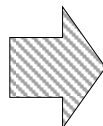
- あ…「あいさつ」が響き合う学校
- い…「いのち」を大切にする学校（いじめのない学校）
- う…「うつくしい」学校（心の美、校庭等の整然美）
- え…「えがお」いっぱい学校
- お…「おもいやり」があふれる学校

#### 3 西与賀小が目指す子ども像と合い言葉

目指す子ども像 “人を愛し、自然を愛し、ふるさとを愛する子ども”

「西与賀っ子」の合い言葉

- 明るく共生する子ども（心づくり）
- かしく創造する子ども（知づくり）
- たくましく伸張する子ども（体づくり）



- ㊦…ここにこあいさつする子（心づくり）
- ㊧…しっかり勉強する子（知づくり）
- ㊨…よろこんで働く子（心づくり・体づくり）
- ㊩…からだをきたえる子（体づくり）
- ㊪…こころをみがく子（心づくり）

#### 4 目指す教師像

- ◎ 人にやさしく、自分に、そして仕事に厳しく向かう教師
- ◎ 児童の心に寄り添い、訴え、納得させる指導ができる教師
- ◎ 互いに切磋琢磨し、高きに和して協働し合う教師集団      ○ 率先垂範      ○ 師弟同行

#### 5 西与賀小の教育活動基本方針

- (1) 明るく共生する子どもを育てる「心の教育の推進」
- (2) かしこく創造する子どもを育てる「確かな学力向上の推進」
- (3) たくましく伸長する子どもを育てる「健康教育の推進」
- (4) ふるさとを愛し、地域と共に成長していく子どもを育てる

「開かれた学校づくり（市民性を育む教育）の推進」

## 2. 本校の教育の特色

- 1 本校は田に囲まれ、自然環境に恵まれています。校区の西側は本庄江に接し、のりやかまぼこなどの産業も盛んです。このような地域をよく知り、地域へ愛着を持つために、地域をフィールドとした学習活動を数多く展開しています。総合的な学習の時間では、教科の学習や学校行事等と関連させて、課題発見から課題解決活動や探求活動の場を多く取り入れ積極的に発信する自主的自発的な活動を促しています。
- 2 本校が目指す特別支援教育は、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その教育的ニーズに応じた適切な指導・支援をきめ細かく行うことです。そして、この指導・支援は、「確かな学力の向上」や「豊かな心」の育成に資すると共に、学校教育が抱えている「いじめ」などの問題の解決とそれらの予防及び早期発見に極めて重要な役割を担うものであると考えます。このような基本的な考えに基づき、平成20年度からは、特別支援教育の視点を取り入れた「集団作りと学力保障」の実践研究に取り組んでいます。また、平成22年度からは、これまでの特別支援教育の実践の上に、一人1台のタブレットをもつという環境を生かし、ICTを利活用した「学力の向上」に取り組んでいます。
- 3 朝の時間帯を活用した読書活動やICTを活用したスキル学習、日常の言語活動を活性化、算数科学習におけるティームティーチングや少人数指導等のきめ細やかな指導の継続により、基礎的学習内容の定着を推進しています。
- 4 西与賀小の子どもを見守る会による児童の登下校の安全確保、JA による農業体験等、地域の学習活動への温かい協力に支えられています。
- 5 幼稚園・保育園から小学校へうまくつながるように、また、小学校から中学校へとスムーズに進学できるように幼稚園、保育園、中学校との計画的な連携会議や情報交換を機会あるごとに行っています。
- 6 平成29年度より、学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールとなり、さらに「地域・家庭と共に歩む学校づくり」を推進している。また、地域コーディネーターを活用して、地域の「人・もの・こと」を教育課程の中に積極的に取り入れて教育の質の向上を図っている。
- 7 平成29年度より佐賀大学教育学部代用附属小学校となり、次世代の教育を担う人材の養成に関わるという自負と責任をもち、教育活動と研究にあたる。

### 3. 教育計画

#### (1) 本年度の教育の重点

平成 29 年度の教育の重点

- (1) 「心づくり」・・・心の教育の推進
  - 落ち着いた学校生活の醸成（日々の掃除の充実、くつそろえ、あいさつ）
  - 「いじめ・命を考える」取り組み、ふれあい道德の充実
  
- (2) 「知づくり」・・・確かな学力向上の推進
  - 佐賀大学教育学部との連携による教科研究の充実（教師の指導力向上等）
  - 学習習慣・生活習慣の定着…城西校区の小中連携、小小連携  
[文教校区 城西本気学園]
  - ICT機器の活用やTTによる指導の充実を図り「楽しく・わかる授業」を通じた確かな学力の向上（ICT機器の活用を学校の伝統・文化としての位置づけ）
  
- (3) 「体づくり」・・・健康教育の推進
  - 健康教育・食教育の充実
  
- (4) 「地域・家庭と共に歩む学校づくり」・・・開かれた学校づくりの推進
  - 開かれた学校づくり、市民性を育む教育の推進
  - 「コミュニティ・スクール」の実施
    - ・ 学校運営協議会の設置
    - ・ 校務分掌の充実
    - ・ 地域教育コーディネーターの活用

～本校のキャッチフレーズ～

☆「学校」で学び、「家庭」で育ち、「地域」で伸びる「西与賀っ子」～子どもへのまなざし運動～☆



#### 「学校経営」充実のための重点ポイント

1 落ち着いた学校生活	2 学力向上	3 開かれた学校作りの推進
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝のあいさつ (心が通う挨拶)</li> <li>○ くつそろえ (靴が揃えば心が揃う)</li> <li>○ 日々の掃除の徹底 (こころ磨き)</li> <li>○ 廊下歩行、 休み時間の過ごし方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 佐賀大学と連携した教科研究の 充実</li> <li>○ 学習・生活習慣の確立 ・文教校区 城西本気学園、 PTA との連携</li> <li>○ ICT機器の活用 ・「楽しく・わかる授業」の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の人やもの、ことを 生かした教育の充実</li> <li>○ 「コミュニティ・スクール」の実施 学校と保護者・地域と共に協 働し、子どもたちの豊かな成長 を支える組織として 「地域とともにある学校づくり」</li> </ul>

## (2)佐賀市の特色ある取組について

### ①幼保小中連携の取組

(1)幼保・中学校とのスムーズな連携の推進を図る。

幼保との連携……1年生児童による「はやくおいでよ1年生」

3年生児童による「お話キッズ」の読み聞かせ

中学校との連携……中学校教師による出前授業(2月ごろ)

中学校の教師による体験授業、部活動見学(夏休み、11月)

教員の連携……城西本気学園(城西中、本庄小、西与賀小)の職員による課題別研修や情報交換会の実施

6年担任と中学1年担任との情報交換会を3回以上実施

新入学児にかかる情報交換および園、所訪問及び情報交換

(2)佐賀市教育委員会こども家庭課指導主事による「ソフトプログラム」の研修を受けます。

(3)年に2回、幼保小連絡会を開き情報交換を行います。

(4)入学式の前と後に1年担任が必要に応じて、入学する児童の幼稚園や保育園と連絡を取り合い、情報交換し指導に役立てます。

(5)1年生の生活科の学習の中で、幼稚園・保育園の年長児を招待し、「おもちゃまつり」を実施します。

(6)3年生の総合的な学習の時間に、幼稚園や保育園への読み聞かせ(お話キッズ)の活動を行います。

(7)中学校の入学説明会の取り組みを通し、中学教師による体験授業・部活動参観を行います。

(8)6年担任と中学1年担任との情報交換会を3回以上(6月、8月、3月)行います。

### ②「いじめ・いのちを考える日」の取組

いのちを大切に作る学校・いじめのない学校

(1)毎月 いじめ・命のアンケートの実施と活用。(児童と保護者へ)

(2)学期ごとの人権集会による人権意識の高揚。PTAと連携した人権教室における保護者への人権意識の啓発(公民館との連携)

(3)体験活動を多く取り入れ、教育課程全体を見据えた道徳の授業及び価値項目に応じ「わたしたちの道徳」を積極的に活用。

(4)各学年に応じた情報教育モラルの計画的な指導。

(5)たてわり活動などの充実。(遊び・学校行事)

(6)ふれあい道徳の実施(授業参観)

(7)学期の初めに佐賀市一斉のレインボー作戦であるいじめの誓いを実施

### ③市民性をはぐくむ取組

「地域・家庭と共に歩む学校づくり」……開かれた学校づくりの推進

(1)各学年ごとに地域の方の協力を得て、授業や行事を行います。

1年生……「むかし遊び交流会」を通して、地域の方と交流し地域への所属感を育む(生活科)

2年生……西与賀町の探検を通して、地域の「人・もの・こと」への関心を深める(生活科)

3年生……いちご狩り体験、農業ハウスの見学、町の歴史調べ学習などを通し、西与賀の町の方々から話をきいて、地域のよさを発見する(総合的な学習、社会)

4年生・・・年2回(7月、3月)町内の公民館に出かけ地域の方と交流し、地域理解を図る(総合的な学習)

5年生・・・JA西与賀の協力を得て米作りなどの農業体験をしたり、調べ学習をしたりして、食と農の大切さを学ぶ(総合的な学習 社会)

6年生・・・西与賀町社会福祉協議会と連携した「独居老人へのしめ縄プレゼント」や学校内での「ちょこっとボランティア」の活動を通して、地域の一員として貢献することの大切さを学ぶ(総合的な学習)

(2) 地域行事(にしよか文化祭・夏祭り・町民体育大会等)で公民館と連携しながら、出番・役割・承認を計画的に行い市民性を育みます。(全学年)

また、西与賀文化祭での学習発表会とともに、高学年による「少年の主張」を行い、地域の一員としての自覚を高めていきます。

(3) 公民館主催の行事(通学合宿・親子料理教室・たこ作り教室 等)への児童の参加を奨励し、地域の方との交流促進を図ります。

(4) なかよし・ふれあいロードの活用として、歩道が広がった学校北側の道路を西与賀地区でのふれあい通りとして位置づけ、保育園、公民館、地域団体と、更なる地域連携を推進します。

## ④「土曜授業」

(1) 土曜授業により増加した時数・・・3時間×5回＝15時間

(2) 増加した時数の活用について

- ・土曜日にも通常授業の実施し基礎・基本の学習を徹底することで学力向上を図る。
- ・学校行事やPTA行事を土曜日に設定することで、月曜日から金曜日までの授業時数を確保し、平日にゆとりをもった学習計画を行う。
- ・水難訓練や水泳学習参観、授業参観などを設定することで保護者の参加を促し、保護者の学校への理解促進を図る。
- ・コミュニティ・スクールの強みを生かし、地域・保護者の協力を得て二分の一成人式や水難訓練、地域の危険箇所の確認等を実施し、学校教育の充実と地域との連携の強化を図る。

## (3) 指導の重点11項目

### ・学力向上の取組

「知づくり」・・・確かな学力向上の推進

全国調査、県調査の結果をふまえ、本校の取り組むべき課題やその改善に向けて学力向上に取り組む

○授業づくりについて

- ・校内研究で学年や教科のグループで協働的に研究を進め、授業実践を通して指導法の改善を図ります。
- ・本校の授業デザインをもとにした問題解決学習のスタイルでの授業の実践をします。(全校で統一した板書カードやノートの取り方を使用します。)
- ・児童の思考力・判断力・表現力を高めるために、授業での効果的なICTの利活用や言語活動の充実を図ります。
- ・算数科を中心に習熟度別指導や少人数指導、発展的な学習、補充的な学習など個に応じた指導を取り入れます。
- ・基礎的・基本的な知識及び技能の向上を図るために、朝の時間や帰りの時間にドリル学習の時間を設定します。

○学習環境の整備

- ・年間4回の生活パワーアップ週間を設け、学級指導、個別指導、家庭との連携により、より良い家庭学習習慣をはぐくみます。

- ・西与賀小学校の学習のきまり(かつおタイムの約束 机の上の整え方など)に基づく共通実践を進め、学習に対する規範意識をはぐくみます。
- ・年度初めの学級懇談で保護者に「家庭学習の手引き」を配布し家庭学習や学習の約束について説明する機会を設け、保護者とともにより良い生活習慣作りをめざします。

#### ○読書の奨励

- ・低・中・高学年それぞれの年間貸し出し目標冊数を設定し、読書に親しませます。
- ・朝や授業の時間を利用したボランティアや教師による読み聞かせをして良書にふれさせ、読書への関心を高めま

## ・道徳教育(心の教育)の充実

### 「心づくり」…心の教育の推進

全教育活動を通して、真実を求め、人とのふれあいを大切にします。

- ・年間授業時数を確保し、児童の実態にあった適切な教材(副読本・わたしたちの道徳)を活用し充実した道徳の時間にします。
- ・道徳の授業を保護者や地域の人に公開し、道徳教育への理解を求めます。(ふれあい道徳:年3回)
- ・地域や家庭と連携し日常化を図るために、学校・学級便り、懇談会などで、めざす子ども像を共有し、児童の道徳性・社会性の育成に努めます。
- ・言葉遣いに配慮した全教育活動での「心の教育」に努めます。
- ・平成30年度からの教科化を意識し、「考え、議論する」道徳科への転換を図ります。

## ・特別支援教育の充実

- ・支援を必要とする児童に対して個別の支援計画、指導計画を作成し、児童一人ひとりに応じたきめ細やかな指導をしていきます。
- ・毎月、教育相談協議会を開き、支援が必要な児童の実態を適切に把握し、全職員の共通理解を図ります。
- ・特別支援学級の児童たちへの理解啓発を図り、全校で支えあう友だちづくりを推進します。
- ・児童への支援の仕方、担任へのサポート内容を巡回相談やスクールカウンセラーなどを交えて考え、支援に役立てます。
- ・ICTの利活用により視覚的支援や合理的配慮をすることで、学習理解の向上を目指します。

## ・生徒指導の充実

全教育の強化、そして社会への規範意識や適応力を育てます。

#### ○児童理解と非行防止

- ・児童の実態把握をし指導の見直しのための生活アンケートを行います。
- ・月の初めをいじめ・命について考える日とし、「おしえてね」アンケートをとって、児童のいじめの早期発見に努めます。保護者に対しては、毎月1回、アンケートを配布し、相談に応じる体制をとります。
- ・家庭との連携を強化するために保護者への便りやPTA行事を活用します。
- ・職員の共通理解の場を機会あるごとにもちます。
- ・必要に応じてサポート会議を持ち、地域や関係機関と連携します。

#### ○危機管理(防災・安全・不審者対応等)

- ・事故を想定した職員の対応研修を行います。

- ・学級指導等で安全に気をつける指導を重ねます。
- ・1・2年生は、教師の指導のもと、集団で下校します。
- ・地域や保護者と連携をとり、児童の安全確保に努めます。

#### ○先生あのねタイム

- ・児童の悩みや思いを知るために、「先生あのねタイム」を午後から一週間設定し児童理解を深めます。

#### ○学校不適応児童への対処

- ・年2回 QU アンケートと先生あのねタイム(全児童との面談)を実施し、児童の実態把握とその対応について、全職員で支える意識に基づいた全校支援体制を整えます。
- ・研修の機会を多くし、特別支援に関わる児童への対応を学習し、有効な支援の在り方を探ります。

#### ○日々の掃除の充実

- ・整然とした中で、落ち着いた生活を送れるよう掃除は、「心の掃除」と位置づけ、無言掃除を通した、自分の心磨きとして取り組んでいきます。

## ・キャリア教育の充実

#### ○農業について地域の教育力を生かし、JA 西与賀の方の協力を得て、体験活動をします。

- ・米作りの体験活動(粃まき・田植え・稲刈り)をします。
- ・タマネギ・大豆の栽培(種まき・苗植え・収穫などの体験活動)をします。
- ・「作ること」と「食べること」のつながりを意識させ、収穫祭を行います。

#### ○西与賀の農業施設、集荷場、工場等を見学します。

- ・アスパラガスのハウス・いちごの収穫・のり工場
- ・地域にある工場(野中蒲鉾)の見学(3年生)をします。

#### ○秋のバス旅行で工場や市場の見学をします。

#### ○生きることのすばらしさや自身の成長に気づき、将来の目標につながるような二分の一成人式を行います(4年生)

- ・式を通して自分の可能性や理想の未来を思い描かせます。
- ・保護者や地域の方々の中で子どもたちが思いを伝える活動を行い、子どもたちの一人一人の潜在的な思いや力を引き出します。

## ・人権・同和教育の充実

#### ○人権・同和教育の取り組み

- ・差別のない「和」の精神に満ちた明るい学校、楽しい学校作りを通して、人間性豊かな心身ともに健全な児童の育成に努め、教育活動全体の中で人権・同和教育を推進します。
- ・学期に1回水曜日の昼の時間に人権集会を実施し、全校で人権について考えます。
- ・各クラスで「なかまづくりのめあて」を決め、互いに支え合う楽しい学級・学校づくりを目指します。
- ・学級活動・学級の時間などでエンカウンター等を行い、人間関係力を育てます。また、「先生あのねタイム(教育相談週間)」を設定し、個人面談を行います。
- ・「合理的配慮」を行いながら、子どもたちが障がいのあるなしにかかわらず同じ場で共に学んでいくことを目指します。
- ・公民館と連携し、人権コンサートに取り組みます。
- ・人権週間の期間に、学年や学級で人権に関わる取り組みを行います。

#### ○育てたい資質や能力

- ・「ありがとう」「ごめんね」「大丈夫？」などの「温かい言葉」が素直に言える子。
- ・自分のよいところに気づき、伸ばそうとする子。
- ・相手の立場に立って、考えたり発言したりする子。
- ・自分の考えを言い、他人の考えも尊重し認め合い、励まし合える安心した環境の中で協力して活動する子。

## ・男女平等教育の推進

学校教育の様々な機会を通して、男女が互いに人権を尊重し、その個性や能力を発揮できるようにする教育を進めていきます。

- ・人権・同和教育、保健・体育の年間計画の中に男女平等教育を位置づけて指導を行っていきます。
- ・性に関する学習を行った時は、学級通信等で保護者にも知らせて啓蒙していきます。

## ・環境教育の推進

- ・環境委員会やエコキッズを中心にして環境教育の取り組みを全校児童へと広げ、継続していきます。
- ・全校でキックオフ宣言をし、「環境の誓い～食べもの・水・電気・ものを大切にします～」の具現化へ向け、共通実践していきます。また、学期に1度、エコ会議を開き、実践の振り返りをし、取り組みの徹底を図ります。
- ・各教科、総合的な学習の時間で活用した環境学習内容を校内や校外に発信します。
- ・各クラスに燃えるゴミ、ビニールゴミのごみ箱を設置します。また、節電と節水のポスター等を貼ります。さらに、クラスにごみの分別、節電、節水を呼びかけ、各クラスの環境への取り組みの活発化を図ります。

## ・情報教育の充実

【本校の情報化に関する方針】

H29年度の校内研のテーマ（仮）

『自力解決に挑み、追求する児童の育成～学ぶ意欲を育む学習過程の工夫～』

- ・これまでの実践をもとにICTを効果的に位置付けた授業づくり
- ・学ぶ意欲を高めるためのICT利活用の在り方
- ・各教科等の系統性から見た基礎的・基本的な学力の育成につながるICTの利活用

【実施方法】

前述の教育の情報化における3つの側面を受け、以下の方法で実施します。

### ①情報教育

- ・情報社会に参画する態度を育成するために、昨年度作成した「情報モラル年間指導計画」を参考にし、道徳の時間を中心としながら各教科及び、特別活動、総合的な学習の時間等に情報モラルに関する指導を行います。
- ・『情報活用能力表』を参考に各学年の発達段階や実態に応じて情報活用能力を育む、単元計画を作成します。

### ②教科指導における情報通信技術の活用

- ・本年度の取り組みを次年度に生かすために、写真や実践事例等（指導案・デジタルワーク・提示用のプレゼンテーション等）の記録を残します。⇒研究紀要
- ・ICT機器の利用が授業の目的になるのではなく、各教科等の目標達成をしながら、学力の3要素（基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成）を向上させるために、ICTの特長を生かした授業づくりを行うようにします。

⇒学びタイム、スキルタイム等の実践





	<p>○道徳の授業を保護者や地域の人に公開し、道徳教育への理解を求めます。(ふれあい道徳:年3回)</p> <p>○地域や家庭と連携し日常化を図るために、学校・学級便り、懇談会などで、めざす子ども像を共有し、児童の道徳性・社会性の育成に努めます。</p> <p>○言葉遣いに配慮した全教育活動での「心の教育」に努めます。</p> <p>○平成30年度からの教科化を意識し、「考え、議論する」道徳科への転換を図ります。</p>
特別活動	<p>豊かな体験と個を大切に活動の推進</p> <p>○自発的な活動を通じた望ましい人間形成のために児童会活動を活性化させます。</p> <p>○委員会活動で4年生を1月から活動させたり、春の遠足や体育大会での異学年交流体験活動、朝のたてわり遊びを数多く取り入れたりして、異学年交流を充実させます。</p> <p>○クラブ活動では、共通の趣味や関心を追及する活動を通して、異学年交流を充実させます。</p> <p>○同学年、異学年の友だちと仲良く、協力できる児童の育成を目指します。</p> <p>○性に関する指導を学年の発達段階に応じて系統的に行います。年間計画の活用がうまくいくように、保健主事、養護教諭が中心となって、指導のアドバイスをを行います。特に1、2、3年生においては、学級指導の時間の中で、水泳指導の前に(5月末から6月初め)養護教諭を中心とした「性に関する指導」を実施し、生命尊重や男女が協力し認め合う態度をはぐくむ。</p> <p>○集会活動では、教科学習で学んだことを生かして展開し、充実感を味わうことで、集団への所属感を高めます。</p>
総合的な学習の時間	<p>地域のフィールド、公民館や地域の人材などを生かし、総合的な学習の時間に積極的に取り組み、自ら考え、解決する力の育成</p> <p>① 自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく解決する資質や能力を育成します。</p> <p>② 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようになります。</p> <p>③ 各教科で身に付けた知識・技能を関連付け、学習や生活に活用することができるようにします。</p> <p>合言葉として “あ”し”の”こ”</p> <p><input type="checkbox"/> あ れ! どうして、なぜかな?    <input type="checkbox"/> し らべよう、きっとわかるよ。</p> <p><input type="checkbox"/> の こそうよ、あらわそうよ。    <input type="checkbox"/> こ んなことわかったよ。つたえよう!</p> <p>○総合的な学習の主たる内容</p> <p>3年 まちの自まんをさがそう</p> <p>4年 二分の一成人式を成功させよう</p> <p>5年 西与賀農業博士になろう</p> <p>6年 平和・地域との関わりについて考えよう。</p> <p>地域の教育力を生かし、体験活動を通してながら問題解決や探求的な活動をすることで郷土のよさを再発見したり、地域のために行動したりする学習活動に取り組みます。</p>
(小) 外国語活動	<p>コミュニケーション能力の素地を養うために、外国語活動に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任とALTとのチームティーチング学習の時間を有効に活用します。</li> <li>・担任、ALT、友達などとの交流を通し、英語の表現や発音に慣れ親しむとともに、相手の言葉に耳を傾け、気持ちや考えを推し量ったり、自分の気持ちを伝えようとしたりするなどコミュニケーション能力を高めていきます。</li> <li>・ALTとの交流を通して、日本や外国の生活・文化・習慣などに触れ、その異質性や同質性に気付くとともに、それぞれのもつよさを味わい、それらを尊重しようとする態度を育てます。</li> <li>・ICT機器やデジタル教科書を活用し、英語を通じたコミュニケーション能力の向上を図ります。</li> </ul>

<p>情報モラル教育</p>	<p>情報モラル教育の年間指導計画をもとに指導を行います。</p> <p><b>【低学年】</b></p> <p>学活や道徳の時間を使って指導を行います。日常生活においてどのようなきまりがあるか、危険に自分たちだけで近づかないことなど情報機器に関わることでなく、使う側のモラルを向上させることを中心に指導します。</p> <p><b>【中学年】</b></p> <p>デジタルドリルなどのIDやパスワードを各自が所持しているため、それらは個人情報であり、漏らさないように管理することやインターネットを使っていて困った場合は大人のアドバイスを聞くことなどを指導します。</p> <p><b>【高学年】</b></p> <p>様々な教科および教科等の授業で情報に関わることもあり、中学年までに指導してきた情報モラルについて折にふれて指導をします。インターネットを利用し情報収集する際に、信用できるサイトなのか等判断する必要があることを指導します。また、他人や社会への影響についても、著作権や自他の個人情報の取り扱いなど、情報を発信する側として注意することの指導を行います。</p>
<p>教育課題への対応</p>	<p>○開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が保護者や地域住民の信頼に応え、「心のふるさと作り」の核となる学校づくりを進めるため、「家庭・地域と連携した魅力あふれる学校づくり」をめざします。</li> <li>・コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会の意見を反映しながら教育活動を実践します。</li> <li>・ホームページ・緊急メール・学校便り・学校掲示板などで情報の発信をするとともに、地域住民へのフリー参観の呼びかけや学校評価アンケートを行い、保護者や地域住民の声や期待を学校経営に生かします。</li> </ul> <p>○基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活パワーアップを年間4回実施し、家庭と連携をとりながら、規則正しい生活習慣の定着を図っていきます。</li> <li>・学級活動や保健の時間等を活用して、基本的な生活習慣の定着をめざします。</li> <li>・家庭学習の充実と学力の向上を図るために、計画的な復習や活用力をはぐくむための課題などを宿題として継続的に取り組みます。さらに、宿題の書き直しにも個別指導を充実して徹底して行う。また、自主学習を奨励し、計画的に家庭学習に取り組む姿勢をはぐくみます。</li> </ul>